焼津市 認知症地域支援推進員 通信

おむすび通心

第9号
2023年 夏

皆さん、こんにちは！
私たちは焼津市の認知症地域支援推進員です。
さて、今回は、焼津市で活躍している「チームオレンジコーディネーター」をご紹介します！

【チームオレンジコーディネーター 望月隆仁さんにインタビュー！】

Q チームオレンジコーディネーターとは、何をする人ですか？

A もの忘れの気になる方や認知症と診断された方が、住み慣れた街でいつまでも安心して暮らせるように、認知症への理解を深めたサポーターを増やすことが私の仕事です。また、認知症への理解を広げ深めることも大切な役割です。認知症は若い方でもなりますし、高齢になれば、いつ誰がなっても不思議ではありません。そして、早期発見・早期治療が重要です。そのため、なるべく多くの皆さに、認知症について「自分ごと」として知って頂きたいのです。

Q 活動をしていて良かったことは何ですか？

A いろいろな場所にチラシを持って行き、認知症の啓発活動をしました。訪問先では、認知症についての質問が多くありました。私は、普段、介護施設に勤めているので、皆さんが認知症について知らずにいるということが驚きでした。そして、皆さんから認知症についてもっと知りたいと言ってもらえ、嬉しかったです。疑問や質問があっても聞く所すらわからないという人もいました。自分にとっての当たり前が、他の人にとっては、当たり前ではないということに気付けたことも、私にとっては収穫です。

チームオレンジコーディネーター
望月（もちづき） 隆仁（たかひと） さん

Q 活動での苦労や課題は、何ですか？

A 一般の方に認知症の話をすると、「わかりません」と言われることがあります。その時、「私には関係ない」と思っている人が多いと感じます。また、訪問先の企業で社員の方に認知症の方の家族がいるかもしれないという話をしますが、あまり関心を持たれないことも事実です。一方で、とても関心を示してくれる方々もいます。

今後、65歳以上の5人に1人は認知症になる時代が来ると、言われています。また、75歳未満の方々が、それ以上の高齢者を支える社会になるとも言われているのです。

市民の皆さんに、認知症のことを「自分ごと」として真剣に考えてもらうには、どうしたらよいかを考えることが、今の私に与えられた大きな課題だと考えています。

（裏面も見てね！）

望月さん、ありがとうございました！

Q　市民の皆さんへのメッセージを聴かせてください。

A　地域のイベントなど、市民の皆さんが集まる所ならどこへでも出向き、皆さんと仲良くなって、「認知症」についての情報を積極的に発信していきたいです。

「認知症になっても安心して暮らせる街・焼津市」をスローガンに、世界一、誰もが暮らしやすい街を、皆さんと共に創りたいです。街で見掛けたら、気軽に声を掛けてくださいね！

【カフェで本人ミーティング開催】

5月26日、市内の「エソラコーヒー」にて本人ミーティングを開催しました。

当日は、天候に恵まれ、皆さんが常に笑顔。そして、とても自然体でご自身の想いを語り合うことができました。

【活用されています！焼津発！認知症よくわかるた】

焼津市が制作した「認知症よくわかるた」が、沖縄県のある小学校の授業で活用されています！

「認知症よくわかるた」を活用し、認知症について、楽しみながら学ぶ取組が、焼津市だけではなく、静岡県内や全国に広がると、とても嬉しいです♪

詳しくはこちら

無料で印刷できます！

【認知症地域支援推進員の願い】

認知症地域支援推進員（以下、「推進員」）は、認知症施策の「旗振り役」と言われています。

私は、推進員の役割を任された当初、何をすれば良いのか不安でいっぱいでした。手探りで活動しながら、推進員として一体何をすべきなのか、ずっと自問自答していました。

そんなある日、研修で「認知症と共に生きる人やそのご家族が暮らしやすい地域を目指すことに留まらず、**誰もが暮らしやすい地域**を目指すことが大切だ」と、いう言葉にハッとしました。これは、「ノーマライゼーション」の考え方そのものです。

無我夢中で活動しているうちに、地域の様々な方々との良いご縁をたくさん頂きました。そして、皆さんから多くのことを教えて頂き、様々な想いに気づくことができました。認知症の方だけでなく、誰もが暮らしやすい街を目指し、これからも、市民の皆さんと良いご縁でつながり合いながら、「認知症になっても安心して暮らせる街・焼津市」を皆さんと一緒に目指したいです。

焼津市南部地域包括支援センター　望月　旬子

【発行】焼津市 地域包括ケア推進課
各地域包括支援センター（北部・中部・南部・大井川）
第９号編集／南部